

月刊 動労千葉

動労千葉結成10周年!

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

1989. 6.28 No. 3049

われわれはJRの奴隷ではない

1988年6月に行われた、昇進試験の合格者・合格率(JR東日本は全社、JR貨物は関東支社)と、動労千葉組合員の合格者・合格率を比較すると次のようになります。

● JR東日本の昇進試験合格者

職員数	受験者数	第一次試験合格者数	第二次試験(最終)合格者数	職員数に対する合格者比率
約83,000名	不明	不明	15,000名以上	約18~19%

(注)「第二次試験(最終)合格者数、15,000名以上」は、1989年4月28日に行われた、動労総連合申第11号「89年度昇進試験に関する申し入れ」についての本社団交での回答。

動労千葉組合員(JR東日本所属)の昇進試験合格者数

組合員数	受験者数	第一次試験合格者数	第二次試験(最終)合格者数	受験者に対する合格者比率	組合員数に対する合格者比率
581名	174名	23名	7名	約4.0%	約1.2%

● JR貨物(関東支社)の昇進試験合格者

職員数	受験者数	第一次試験合格者数	第二次試験(最終)合格者数	職員数に対する合格者比率
3,674名	不明	不明	392名	約10.7%

(注) JR貨物全国の状況は不明のため、関東支社管内のデータ。合格者数は、1988年12月6日支社団交での回答。ただし、昇進試験によらない若干の基準昇格者を含む様子。

動労千葉組合員(JR貨物所属)の昇進試験合格者数

組合員数	受験者数	第一次試験合格者数	第二次試験(最終)合格者数	受験者に対する合格者比率	組合員数に対する合格者比率
104名	24名	7名	3名	12.5%	2.9%

昇進(昇職・昇格)をたたきとった
切り崩し攻撃を打ち破ろう

会社当局があの手この手を使って組合潰し攻撃を加えても効果をあげないとき必ず使う卑劣な手段が差別制度の導入と金銭を使つての個人への分断攻撃である。

JR東日本と貨物会社は、鉄道労連革マルと結託し、「一企業一組合」な組織破壊を狙って昇進試験制度の導入と悪用(

八八年二月)、金銭面(昇給・ボーナスカット等)を使つての最も劣な攻撃に出ている。われわれは怒りも新たに差別・分断攻撃を断罪し、いっそう団結をうち固めることを決意する。

仲間意識の破壊を狙う昇進制度

最大の問題点は、昇給・昇格の全てに試験制度(筆記と面接)をもちこみ、加えて「社員としての自覚、勤労意欲、態度、知識・協調性」などを判断し判定する、というのである。

「社員づくり」が敵の狙いであることは余りにも明瞭である。

しかも、労働処分であろうと事故であろうと処分即昇職・昇格なしというところでもない制度である。

要するに、昇職・昇格するの可否は全て当局の自由・勝手な判断と裁量でどうにでもなるというものである。

生活設計や将来への希望に関わる問題を人質にとつて露骨な差別をもちこみ、仲間意識を解体し、当局の顔色をうかがう「

さす闘いぬくことである。一人はみんなのために! この労働者精神にしっかり立って心の通い合う団結と「職場」を守り、発展させよう!

昨年度の実態が証明する労組差別の現実

この実態が差別の存在を勇弁に語っている。われわれの回答はただ一つ、仲間を信じ、被解雇者や清算事業団の仲間の怒りをわがものとして卑劣、卑きようなJR当局を許

NO! 銀行振込

